

# 募集班長の模型部屋（第6回）

皆さんこんにちは。

先日、とあるモデラーの方から「齊藤さんは自衛隊車両しか作らないのですか？」と聞かれました。戦車が中心ですが、何でも作りますよ。その中から、自衛隊車両を地本のホームページで紹介しているだけです。と言うことで今回は、自衛隊車両を離れて、旧日本軍の戦車を紹介します。その第一弾は、日本海軍陸戦隊で使用されていた・・・

## 特2式内火艇です。



特2式内火艇は、旧日本海軍陸戦隊が上陸作戦に使うために、陸軍技術本部の協力を得て、95式軽戦車を基本にして開発された戦車です。車体前後にフロートを装着し、水上走行時は車体後部の2基のプロペラスクリューで推進する珍しい戦車です。詳しくは専門誌やさまざまなホームページで紹介されていますのでそちらをご覧ください。

私がこの車両をはじめて知ったのは、小学6年生の時にタミヤのウォーターラインシリーズの「1等、2等輸送艦」のキットを作り（当時の小遣いでは500円のこのキットを買うので精一杯でした。）、その2等輸送艦の部品の中に、「97式中戦車」と「特2式内火艇」があったのです。「え、日本にも、水陸両用の戦闘車両があったの？」と驚いたのを覚えています。その後いろいろ「戦車百科事典」なるもので調べて、「軍艦の色を纏った水陸両用の軽戦車」とのイメージがずっと脳裏に焼きついていました。



キットは「サイバーホビー」のキットで、発売されたのを知り、夏季休暇を利用してアキバの模型店で購入しました。キットの横には、どう見てもこのキット用に作成販売されたであろう「日本海軍隊戦車兵セット」のガレージキットがあり、値段も高価だったのですが、一緒に購入してしまいました。少ない防衛予算が圧迫されてしまいます（泣）。お店の人も、「さすがですね！」いやいや、そんな。買うことを褒められても・・・

キットの出来はすばらしく、転輪のボルトの緩み止めワイヤーや、シャープなボルトの表現、エッチングパーツによるメッシュ等部品の数々・・・私には文句ない一品です。完成後は絶対に見えないであろう内部タンクやフローと切り離しハンドル等、細部にわたる取材がなされているんだなぁと感心してしまいます。塗装は軍艦色を使用しました。最近の文献を見ると「緑色」なる表記もありますが、キットの塗装指示のとおりです。



スクリーナなのですが、金色のまま野外で行動したのかな？土にこすれて曲がったり欠損したりしたのでは・・・などこの車両が戦っている光景を想像しましたが、割り切ってきた金色（真鍮色）にしました。

車体全体を見ると、幅が広くて安定感がありそうですが、キャタピラ幅が狭いため不正地走行に苦労したのではと想像してしまいます。もっとも12.5トンしかなかったのですから、このくらいのキャタピラでも十分だったのかもしれませんが。



基本塗装の後にスミ入れをし、タミヤのウェザリングスティックを水で溶いて塗りました。自分が乗るとしたら、ここに足をかけて、そして、車体上部を歩くときは、ここを踏んで・・・と自分が乗員になった気持ちで泥や埃を塗ってます。当然、南方で使用されましたので、激しい雨にさらされたと思い、車体側面を流れる汚れを表現しました。キャタピラはキットのものをフラットブラックで塗り、バフ、メタリックグレイ、タイヤブラックでウェザリングを施し、車体に取り付けてから足回り一緒にスティックで仕上げました。



車体下部の泥汚れはほどほどにしておきました。サイパン島の海岸地域で走行していたであろうことから、砂塵汚れを表現してみました。まあ、サイパン島なんか行った事はないですがね・・・想像の中のサイパン島汚れです。角ばっていて、結構近未来的な車体に見えるのは私だけでしょうか。



斜め上方から見た特2式内火艇です。  
ハッチは可能な限り開放状態を選択し、内部が確認できるようにしました。得に、この車両独特の複雑なハッチの形状が分かるかと思いません。

敵を迎え撃つ海軍陸戦隊の二人の戦車兵のフィギュアが気合い入ってます。しかし、米軍を相手にこの武装では・・・

下の写真ですが、20年以上前に発売された「アリマ」（現イエローキャット）の特2式内火艇と並べたものです。フロートを装着するとこんなに大きくなるんですね。しかし、長い年月のためかレジン製の砲身が下に曲がっちゃってます。後で直さなきゃ・・・



さて、次回は・・・旧軍シリーズ第2弾

**97式中戦車**です。またお付き合いください。